

印刷物制作番号  
2018-179  
発行部数 1,500 部

新宿区社会福祉協議会 第4次経営計画 2019年度～2023年度



新宿区社会福祉協議会  
第4次経営計画 2019年度～2023年度  
2019年3月

社会福祉法人 新宿区社会福祉協議会  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1丁目17-20  
Tel:03(5273)2941 / Fax:03(5273)3082



社会福祉法人 新宿区社会福祉協議会

新宿区社会福祉協議会

第4次経営計画  
2019年度～2023年度



2019年3月



社会福祉法人 新宿区社会福祉協議会

# はじめに

新宿区は、地域に暮らす人々やその暮らし方など、多様性に富んだ活気のあるまちですが、少子高齢化や単身世帯の増加などが顕著な地域でもあります。

新宿区社会福祉協議会（以下、「新宿社協」）では、2006（平成18）年に第1次経営計画（2006年度～2008年度）を策定し、『だれもが安心して暮らせる新宿型福祉コミュニティ』の実現』を基本理念として地域福祉を推進してまいりましたが、集合住宅の増加など都市部特有の環境と相まって、地域共通の課題も一人ひとりの生活課題も年々複雑化してきております。



国は、2017（平成29）年、今後の福祉の基本的な考え方として「地域共生社会の実現」を掲げましたが、新宿区においても、「だれもが安心して暮らせるまちの実現」に向けた努力が一層求められていると考えております。

こうした状況を踏まえ、新宿社協では今後5年間の取り組みとして、第4次経営計画（2019年度～2023年度）を策定いたしました。

この計画では、住民だけでなく、さまざまな分野で活躍する関係機関などとの連携・協働がますます欠かせないとの認識に基づき、これまで新宿社協が蓄積してきた地域福祉推進の専門性とコーディネート力、地域との関係性を駆使して、多様化、複雑化する課題の解決にも取り組み、地域共生社会の実現を目指してまいります。

本計画を着実に推進していくためには、地域の皆様をはじめ、民生委員・児童委員、町会・自治会、各地域団体、ボランティア、NPO、新宿社協の各事業の協力員、行政機関など、多くの方々のご理解とご参加が必要です。引き続き、多くの皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、平成29（2017）年度から2年間にわたり、地域で活動されている経験を土台として、それぞれのお立場から熱心にご議論いただきました推進部会委員及び各地区社協部会委員の皆様をはじめ、地域の皆様、新宿社協の活動にご協力いただいたすべての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

2019年3月

社会福祉法人新宿区社会福祉協議会  
会長 北中 誠

## 第4次経営計画の策定に寄せて

今、日本社会は大きな転換点に立っています。少子高齢化は地方都市のみならず、東京などの大都市部にも及び、人口減少によって社会の根幹を見直すべき時期にあります。一方で、移住してくる外国籍の人々もこれまでにないほど増加し、国際化は日々進んでいます。新宿は、こうした日本社会の縮図であり、未来を先取りしています。

この新宿を支えるステークホルダーの一つである新宿社協は、この第4次経営計画の基本理念を『だれもが安心して暮らせる新宿型福祉コミュニティ』の実現としました。『新宿型福祉コミュニティ』とは、「多様性」という意味を含んでいます。ここでいう多様性とは、居住者にはさまざまな国籍、世代、新旧住民が入り混じっていること、また、居住者のみならず、多くの通勤者・通学者などの流動人口がいること、さらに、福祉の担い手としても、社会福祉法人、NPO、ボランティア、民生委員・児童委員協議会、町会・自治会、企業などがあることです。その量と質の多種性は他都市ではみられないほどです。

こうした多様性は、時に問題もはらみますが、大きな力にもなります。従来型の支援体制のみでは、生活問題を抱えた人をサポートしていくのは難しいですが、多様性をパワーにして地域共生型のコミュニティを作っていこうというのが、『新宿型福祉コミュニティ』という言葉に込められているのです。

経営計画の策定を検討する推進部会では、「これからの新宿社協のありかた」について議論を重ねました。オリンピック後、そして10年後の新宿はどうなっているのか、どんな地域にしたいのか、その中で新宿社協の役割は何なのか——委員はそれぞれの立場で、いずれもより良い地域社会を求めてどうするべきなのかの意見を交わしました。そこで共通して出されたキーワードが「出しゃばれ社協！」というものでした。「新宿社協は今も、幅広く活動を行っている。だけど、そのことが住民に知られているだろうか。もっと前面に出て自分たちを知らせなさい」という声が多数の委員からあがりました。「黒子に徹する」は社協の基本姿勢です。「主役は住民であり、社協はそれを側面的にサポートする」ということです。「主役は住民」であることは間違いないのですが、それだけではありません。もっとフロントラインに躍り出て、「こうしていきましょう！」という旗振り役になってもよいのではないのでしょうか。スピードスケート競技の一つであるパシュートは、一列になり順番を変えながら速さを競いますが、これからの地域を支える主体も、パシュートのよように場面によっては先頭を変えながら走っていくことも必要だ——そう背中を押されたのです。

社会が複雑化していく中で、社協に求められる役割はますます増大化しています。多くの人々や団体・機関と協働しながら「新宿社協だからこそできること、新宿社協にしかできないこと」に取り組んでいきます。本計画にはこの決意が示されています。



2019年3月

社会福祉法人新宿区社会福祉協議会 推進部会  
部会長 山本美香

# 目次



はじめに

---

第4次経営計画の策定に寄せて

---

第4次経営計画 体系図

2

---

第1章 計画策定の背景

---

1 第3次経営計画をふりかえって

(1) 経営方針1 住民主体の支えあいのしくみづくり・・・・・・・・・・ 6

(2) 経営方針2 自分らしく暮らし続けるための地域ぐるみでの支援・・ 7

(3) 経営方針3 地域福祉を支える基盤の強化・・・・・・・・・・ 8

(4) 第3次経営計画期間中の取り組み内容の推移・・・・・・・・・・ 9

2 社協を取り巻く環境

(1) 国などの動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

(2) 第3次経営計画における新宿社協の状況・・・・・・・・・・ 12

第2章 第4次経営計画

---

1 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

2 経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

3 第4次経営計画で目指すもの・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

4 第4次経営計画キーワード～つなぐ、育む、広げていく～・・・・ 17

5 重点的な取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

6 個別事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

資料編

51

---

用語等の説明

64

---

策定経過

66

---